

静中・静高 関東同窓会 会報

静中・静高関東同窓会
会報 第28号
平成2年1月26日発行
編集人 上 杉 重 吉

自由な発想で御注文や提言を！

会長 大 石 巖 (53期)



お引き受けする破目になってしまった。

幸いなことに支部の運営には、これまで献身的な活動をしていただいた奥野さんをはじめ、核になってお力を貸して頂いた有為な幹事諸公が健在で、そのまま協力して頂けることになっている。十余年に及んで、指導力を発揮された宮澤さんの遺された足跡も脈々として生き続けることも間違いないと思う。それに今度、新しく理事に参加された若い世代の方々の斬新な行動力に大きく期待がかけられることも楽しみである。

昭和から平成に入ったこの一年、文字通り激動の一年が、いまま終ろうとしている。私も新日本証券という会社の社長、会長をつとめて十余年、余りにも早い変化について行けない自分を感じることが多くなりすぎて、相談役の閑職についたとたんに、同窓会関東支部の御面倒を見ろということになり、その任に非ずと思いつながら、

ろう。またそれを無理に統一的な見解にならしてしまふ必要はないと思う。

ただ人が生きていく過程で「友人」「仲間」といった人間関係がどれほど大切なものであるか——これは理屈ではなく、現実と思い知らさせる事柄のいかに多いことか。私の七十年の人生経験では、極端な言い方を許して頂くとしたら、それだけで今日まで生きて来たといってもよい。

同窓会はそのような人間関係を構築する一つの有力な道具立てとして役立つものであってほしいと思う。まして中学、高校という人として自我形成の最盛期に机を並べた仲間、その後仕事や生活の環境がさまざまになり、久しく顔を合わせることがなくても、僅か十分でも語り合えば、昔のままの本性が丸出しになり、お互に胸襟を開くことが出来る。これが横の糸とすれば、縦の糸は連綿と続く先

輩、後輩のつながりである。

同じ学校でも、時代が違えば、先生も変り教育方針にも微妙な差異があつて当然前だと思う。しかし「私は何回の卒業です」という言葉だけで、後は自己紹介を長々とする必要がないという関係は同窓会以外にはどこにもない得難いものであることは確かである。

そこで私は皆様にお願ひする。

同窓会の運営その他に、御注文や提言をどんどん出して頂きたい。

出来ることは少ないかも知れないが、従来の慣例にとらわれずに、新しい試みにも前向きに取組んで行つたらいいと思う。タテとヨコの糸といつても、がんじがらめの窮屈なものではなく、柔軟でゆるやかなもので構わないわけだから、自由な発想が望ましいのではないだろうか。

そして同窓会の集りや催しには気軽にできるだけ多数誘ひ合わせて御参加をお願いしたい。同窓会を生かすのは他人ではなくて、会員皆様の力に頼るしかないことをお忘れにならないで頂きたい。

とりとめのないことを書きなぐりましたが、終りに激動の世の中はまだまだ続きそうです皆様の御健勝と御活躍を祈ります。

その後の同窓会活動

(平成元年6月～11月)

◇臨時幹事会

・6月27日(火) 18時

新日本証券㈱会議室

出席者：11名

・6月9日の総会の反省や総括・事業計画・組織運営と会報27号などについて協議

◇7月10日、大石会長、奥野副会長等、14年間会長としてご尽力くださった宮澤次郎氏をトップパ

ンムーア会長室に訪ね、記念品を贈って謝意を表す。

◇幹事会

・7月28日(金) 18時

新日本証券 6階会議室

出席者：45名

・当日出来の会報27号発送の依頼ゴルフ大会などの懇親会について意見交換 など

◇叩高会ゴルフ会：10月26日(木) 詳細は別掲。

◇10月21日(土) 静高同窓会館にて開催の合同役員会に、関東支部より上杉・味岡両副会長出席。

◇10月18日(土) クーボール会館にて開催の定時総会には大石会長と奥野副会長が出席し、会長の講演は好評を博した。

同 期 会

四三期

多事多難の時代であり、吾々年代の者が六十余年にわたり過してきた昭和の終焉を見送り平成元年を迎えたが、本年になってから友人、知人の計報が次々と続いていた。

一月十九日に音楽家であり「川根音頭」などを作曲された井沢源次君を、三月には静岡の三笑亭の大石貞次君・吉見書店の吉見三郎君を、七月には教育者であった久保田三郎君、九月には同窓会理事で野球部後援会の役員でもあり、

四三会の世話人でもあった元氣一杯の小杉一君が急逝されてしまった。誠に哀悼にたえない。

毎月二十日に三笑亭で開かれている四三会の中心人物であった大石・小杉両君を失った事は吾々のクラスにとって大打撃である。

二十日の三笑会も平成二年六月で芽出度く第百回を迎えるので、これを記念して多数集めることにしていたが、他界された方々を偲んで有意義な会合にしたいものである。その節はクラス員の多数の出席をお願いする次第である。

東京四三会もここ数年米毎年開



いているが、平成元年十一月十六日に柳沢保雄君のお世話で銀座の交詢社で開いた。静岡からは磯谷幸一郎君、堀田利郎君が出席されたが常連の故小杉一君の姿を見ることはできなくなってしまった。

大阪の平山桂君も毎回出席されていたが、今度は大阪空港へのモノレール路線の変更問題の環境に対する意見具陳のため裁判所行きと重なった為、残念ながら欠席となっていました。

在京者は十二名の出席で一番遠方の芽ヶ崎からの豊島英夫君が第一番に幹事より先に来られていたのには驚かされた。定刻までには全員が揃ったので磯谷君の乾杯で宴に移った。

山村忠雄君が来られる途中で本日発売のボジョレーヌーボーワインを明治屋で行列して購入して持参されたので、この初飲みをバリイより七時間も速く味わうことができた。有難うございました。

この所、いまだ現役で多忙のため欠席勝ちであった北里良夫君、倉沢栄吉君も久々に出席されたので積る話に時のたつのも忘れた位で飲物も料理も十分に用意されたので一同充分満足できたようである。区切りのよい所で一応お開きにして、全員で記念写真を撮り、

用事のある方々は退場されたが、残った十名はロビーでコーヒードrinkしながら、再び話に花を咲かせた。時間もオーバーしてしまつたが次回を楽しみに解散した。

出席者

静岡 磯谷幸一郎、堀田利郎
東京 池谷三郎、北里良夫、倉沢栄吉、嶋田富治雄、豊島英夫、長戸寛美、西沢純三、三宅静雄、三好由三郎、柳沢保雄、山村忠雄、吉江誠一
(西沢純三)

四五期

平成元年も押しつまりましたが皆様お変わりありませんか。お互い喜の寿を越え、体力が衰えたり部品が傷んだりして、療養に専念し外出を控えねばならぬ状態の人がだんだん増えて来るのは止むを得ません。しかし、まことに残念であり寂しいことです。三年ほど前から始めた隔月の有楽町での45期会でも、近頃は大石清、柏木千秋、佐野理平、鈴木弥門、田附敏三、松林晋一などが常連で、顔触れがぎまって来た感があります。

これらの人たちは何とか元気でして、集りも賑やかになります。
○大石君は物静かで、読書といささかの酒を愛し愉しむ風です。
○柏木君は創価大学で若い学生に

接しおり、時折り彼が運転し夫妻で草津などへ遠距離ドライブを楽しむに出かけるなど元気です。

○佐野君は自ら二病息災(?)という通り、達者でサッカ・リーグビー等スポーツ観戦を愉しみにしばしば出かけているようです。

○鈴木はゴルフに熱中し、この十月には思いもかけぬホールインワンを達成でき、喜んでおります。

○田附君は相変わらずアテネ・フランセで若者とともに学び、地域の世話役で忙しそうです。

○松林晋一君は心筋梗塞の難病を克服して復活し、精力的に仕事に取り組みバイタリティーには敬服いたしております。

なお、この人達を除く方々には電話で近況を伺いましたのでその要点だけを以下報告します。

○石上稔君 脚が多少弱って来たが、「湘南の史跡を訪ねる会」の会員として月一回は史跡(湘南地域)ではないの探索調査に参加し、愉しんでいるようです。

○伊藤敬三君 相変わらずの様子で、謡曲の会で指導や運営に掌わり、よく出かけているようです。

○蝦原一郎君 歩行困難のほかに至って元気、自転車に乗り40キロメートル以内での散策を愉しんでいる由。

○黒田明彦君 脳梗塞のリハビリ中。この春と秋と二度入院したが退院。脚の運びが不安のため散歩は付添い同伴でやっている由。

○草野哲君 夫人が恢復して退院され、本人も元気で晩酌を楽しんでいるようす。

○下川猛君 長いお勤め生活から自適生活への転換に馴染めず苦しんだが、漸く新しいリズムを掴みかけて落ち着いて来たとの由。

○須山達夫君 国際鳥類保護会議の常務理事として月火水木金金と取り組んでいるようす。

○竹下定吉君 脚の関節を傷め、歩くと激痛があり、屋内だけの生活で、外出はおぼつかない由。

○千葉保次君 腎臓を患い入院したが退院し、目下自宅で療養中の由。

○速水基夫君 特に持病はないが止むを得ない会合の外は家に居ることが多いとのこと。

○堀正治君 高血圧で手先に痺れがあり、酒・ゴルフも禁止、家で専ら療養につとめている由。

近況報告は以上ですが、病氣療養中の方々の一日も早い全快を切に祈って止みません。なお、宇佐美安行君は、本人のたつての申し出を受け除籍といたしました。

▼「おしらせ」 昨年鈴木の家

改築の際、我々45期生の卒業記念写真(四切判 教職員38名、生徒161名)が出て来ました。松林君の骨折りで拡大写真(大四切判)に複製したところ、なかなかの出来で当時の面影が鮮明に伺えます。ご希望の方にお頒ちします。鈴木

(〇三二四二〇一四五六二)宛お申し込み下さい。価格(焼増し一五〇〇円、消費税包装代運賃込みで六〇〇円)は二二〇〇円となります。

「註」申し込み数をまとめてから注文を出すので、配布までに多少日時を要します。ご諒承下さい。

(鈴木弥門)

四九期

平成元年はまさに激動の年となりました。愈々老軀に鞭って頑張りたいと思います。

去る十月十五日、同期会総会が静岡市の「もくせい」会館で開催されました。

総出席人員は二十八名、内東京及県外からの参加者十四名、大変愉快な人生自慢話で談笑につつまれました。

年廻りから健康の勝れない人の話が出ました。

江山秀明君が八月二十四日、脳溢血で倒れ日赤医療センターに入

院、九月一日お見舞に行ったが既に意識不明でした。三ヶ月経過した今も危篤状態が続いている。御恢復を祈るや切である。

安本久君が九月末、前立腺腫瘍で十月二十一日退院し以後自宅で療養中とのこと。切にご快癒の一日も早からんことを祈る。

配属が校だった佐藤正鶴先生が九月五日、百一才のご高齢で眠るが如き大往生とげられました。ご冥福をお祈り申しあげます。

同窓会出席の東京その他県外の参加者次の通りです。

伊藤徹次郎、石田大二郎、加藤馨、小林道雄、篠田俊一、菅沼栄、曾根重四郎、山家久、植木定美、今村泰二、杉本久敬、長谷川一忠、東山巖、松原春雄、相羽光

(菅沼栄)

五〇期

平成元年秋季同期会が十月二十三日(月)十八時からR・プラザで開かれ、会員十名が出席した。静岡からの参加はなし。二十時校歌を歌い散会。次回は平成二年四月二十三日(月)同時同所です。

(田中) 退屈しのぎに讀。運動は自転車こぎ。

(山田) ヴィタミンE・Bをとること。よく眠る努力をする。仏草

命二百年祭に参加。ホテルやつと一人分とれたので、すべて独りでやりとおした。

(梅村) シスコ地震はM六・九、関東大震災の三十分の一で宮城県沖地震と同程度、高速道路は五十年前のものがやられた。柔構造中心に地震よもやま話。

(大庭富) 夏ひどい風邪にやられた。血糖値高く、肝臓二週間おきに検査、一月半で元へ戻り、ゴルフも九十を割ることができた。

(仁科) 奄美大島、黒部、カナダと旅行した。カナダのスケールの大きさが印象的。

(勝又) 三十数年前腎臓を患ったが、歩け歩きの健康法で克服。

(梶原) 早寝、早起。鳩ヶ谷は緑多く速歩に徹す。ラッシュの車内はよい刺激と思う。

(大庭左) 子供・孫と離れ、マンション五階住い。静岡弁に郷愁を覚え、本部会報で好評を得た。土地の値上りで子供一人当り遺産一億とか。おどろくばかり。

(浅賀) 遺産を評価して貰ったら億を超えており、びっくり。特許庁七五才まで頑張る。ラッシュは苦もあるが楽しみもある。

(永田) 老人性白内障で右眼八月手術、レンズ挿入できぬ特異体質で、コンタクトレンズを使用、テ

ニスから離れ、身体がなまってきた。十一月二日から五泊六日間、タイに研修旅行した。労働力の安さ(女子日給が日本のパート時給より安い)と政情安定のため、労働集約型の産業を中心に、日本企業の進出ラッシュになっているが、地価や賃金を吊り上げ、現地での評判は今ひとつ芳しくない。日本語のできる中堅社員や技術者が不足し、日本企業同志の引抜きが烈しい。他人の軒先を借りているという謙虚さを持ち、現地の言葉は勿論、風俗・習慣に合った行動をとり、現地の発展に協力するといふ姿勢が大切であると痛感した。

お金を落す割には現地で歓迎されないようで、こんなことをしているとアジアの国々から嫌われてしまふのではないかとという危機の念すら覚えた。効率優先、札束で煩をたたくような商法は大いに反省すべき時期にきているのではないか。

◎終りに欠席した会員の動静をお伝えます。

(江川) 大学クラス会一泊旅行と重なり欠席、耳少々遠い以外身心共健康。

(一) 欠席

(松崎) 体不調、残念。

(久保田) 糖尿症状の管理中、昨秋軽い脳梗塞を起したが、二月復帰。芦沢氏昨年十一月ビールス性脳炎、九月退院、リハビリ中。

(木下) 前田幹事共々地元行事のため、小泉幹事眼病手術のため欠席。

(川森) 都心部へ一・五時間かかり、おっくう。静岡へ出かけ疲れた。

(緑川) 土曜か、祭日以外出席できない。

(益田) 都合つかない。

(住) 在静岡の妹の世話のため。

(篠原) 体調思わしくない。

(峰田) テニス・スポーツクラブ通いで元氣。中国地方への旅行と重なった。

(佐野) 所用のため。「歩々到着」が近況。

(永田 徹)

五一期

会員の皆様しばらく御無沙汰致しました。前号に引き続き、五一会の近況をお伝えします。(五一会とは第五十一回卒業生の集い)例年通り春秋二回東京と静岡で開催出来ました。春は、四月十四日(金)東京築地スエヒロに十四名集まりました。次に出席者を紹介します。(敬称略) 芦田正之、大

富部国男、狩野安彦、河瀬士郎、佐伯正剛、下山富太郎、高橋達郎、寺尾利男、永井五一郎、林盛次、原崎郁平、藤田修二郎、森弘、渡辺功。料理もお酒もまあめで充分あるのに早々と三々五々車座になって懇談に老の花を咲かせるひと時でした。秋は十一月二十五日(土)静岡の三笑亭本店に三十名集まりました。これは近年にない盛会でした。(昨年は二十八名)席上石塚寿男君から発言があり故大石鉄夫君が戦時中南方某海軍病院での手記「邂逅」の紹介がありました。これは最近同君の遺族が小冊子として編集したのですが内容は随所に彼の部下への思い遣りと責任感が溢れており、読んでいて頭の下る思いでした。未だ若干手持があるようです。御希望の方は幹事に御連絡下さい。遺族の大石隆彦氏にお知らせして直接送るよう取計らいます。兎も角も京浜地区から七名、静岡清水市以遠から五名加わり随所で懇談が続き、あつと言うまに閉会の時間になりました。次に出席者の氏名を記します。

橋達郎、滝戸直正、橋本祥一、原崎郁平、足野良市、広瀬毅、牧野三郎、松永正、丸山雅生、村松辰己、森弘、山村卓彦、山仲元司、山本寛三、山本辰男、和田弥左衛門、小河八十次、柴崎育俊。(佐伯正剛)

五二期

六〇有余年続いた昭和時代に別れを告げ、迎えた平成元年も残り少くなりました。昭和天皇の御逝去に始まり、思えば平成元年は日本のみでなく全世界が、ニュースに事欠く事がない程重大ニュース連続の波乱万丈の一年でありました。何か第二次世界大戦処理の後始末のつげが廻って来たような感じが致します。

我々五二期生にとっても、古稀と云われる人生の一つの大きな節目に当る年でありました。

この意義ある年の五二期在京者同期会を本年は田中貞司、今井健三両君の幹事で、目出度い古稀を祝い幹事の絶大なる御骨折りにより、凸版印刷湯河原保養所を借り切った感じで、去る十一月八日、九日一泊にて盛大に行われました。その上静岡在住者にも声をかけた処、多数の参加があり一段とにぎやかな記念すべき同期会となりました。

当日は生憎の雨にもかかわらず昔なつかしい面々一人一人夫々いろいろな思いを秘めて近來にない十六名の出席者となりました。会った瞬間その時より一同五十有余年の昔の悪童に戻り飲談の輪が広がりました。早速一同湯河原温泉に浴塵を払い落し、夜の部開宴の運びとなり、幹事より清水在住の田中静一君の死去の報告を聞いた時、明日は我が身かと一瞬シーンと致しましたが、つづいて川島君の叙歎の喜ばしいニュースに歓声が上がり皆で心より喜びお祝いの拍手を送った次第です。田中静一君の御めい福を祈り、川島君の叙歎を祝い悲喜交々の乾杯に始まり夫々の貴重な体験話、悪童時代の秘話など話しはずみアルコールが廻るにつれてカラオケならぬ中学時代より堪能であった深津君の生の伴奏による今の歌、昔の歌に宴はいやが上にも盛り上がり、最後は静岡の奇術会々長でもある沢本君の数々の奇術の披露に目を見張り、つぎる処を知らない宴でしたが、最後はお定りの岳南健児一千の1を声高らかに歌い湯河原の夜は愉快に楽しく様々な思いをこめて幕はおろされました。

翌日朝食後、又来年お互い元気に会いましょうと誓い合い名残りは尽きませんでした。この楽しい湯河原の一夜を又明日よりの糧に頑張る事を誓い合い再会を約して解散しました。

尚当日の出席者は、相島秀夫、石野浩一、今井健三、岩本良雄、曾根信一、田中貞司、新美弘、服部雅雄、広川聡(以上東京在住者)伊奈晋、佐藤鋭一、沢本基道、深津秀夫、松下順、村松申吉、植松良三(以上静岡在住者)、以上十六名の諸君です。

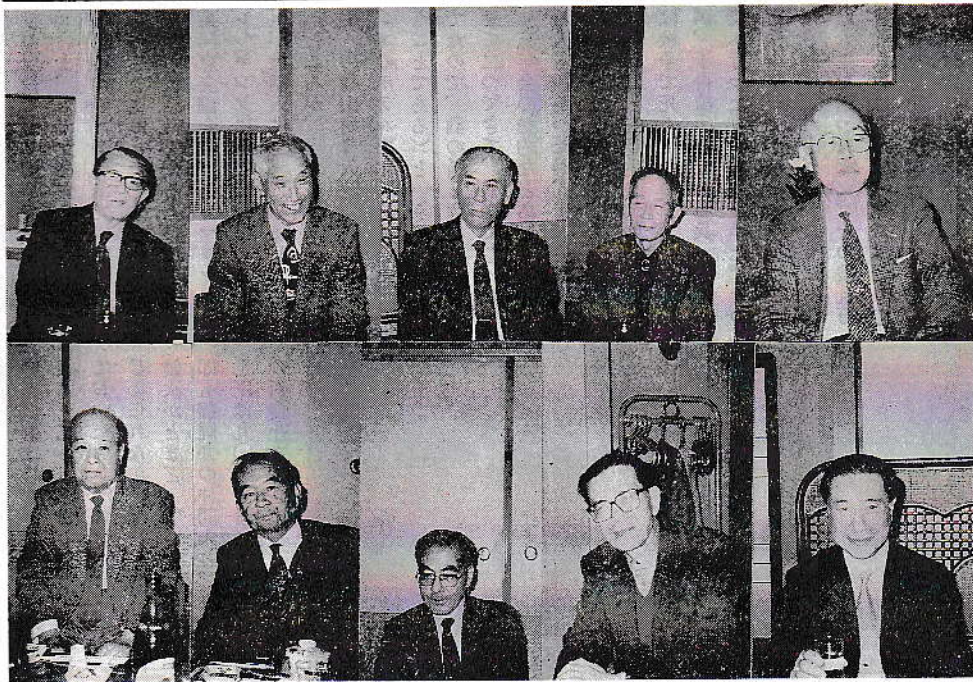
(服部雅雄)

五四期

昨年は天皇ご不例のため開かれなかった五四季会を、一昨年と同じ新橋「太洋」で十一月十八日に催した。

静岡同窓会総会と重なったため招待した静岡の同級生は高橋君と永原君だけで、総勢十名であったが結構盛り上がり、総勢十名であった。(高橋)五四季会の五十周年記念を行なったことが最大行事であった。みんなも年をとったので閑もでき、時々有志が集まつて月見や花見、時には日帰り旅行などを楽しんでいる。

(鈴木) 六十のなんとやらで、最



近ゴルフを始めた。清水の富士見が丘カントリーの会員権を買ったが、腕は上がらずに、三八〇万が一千万に上がつて気分を良くし、

張切ってプレーしたらギックリ腰になって只今休業中。

(滝戸) 独身生活が長かったので子供がまだ若い、まだ半現役

で都の仕事をしている。三十になる男の子がいるから、お嬢さんがありましたらよろしく。

(高井) 五十過ぎてから昨年まで単身赴任したので、現在は奥様にサービス中。年金生活で、時々経理の手伝いなどしている。

(大畑) 鉄道の警備器製造と取付

仕事をやっているが、人手不足で自分が先頭に立ってやらねばならないが、幸い健康で頑張っている。

(細井) 学校は建築だが左官屋になった。ダイヤモンド社の調べでは税金で全国二位になっている。これは、自分の発想で従業員養成の傍、持家制度を取入れて従業員の離散を食い止めたことだ。その結果、清水・鹿島・竹中より絶大な信頼を克ち得た。

(永原) 引退して十年経ったが、一昨年、日中農林水産協会の仕事に入り、椎茸の生産交流に従事している。湖北省は原木生産、福建省はオガ屑生産が主であるが、品質は良くない。静岡は生産で世界一で、中でも伊豆半島が一番である。しかし、これから安い中国産がどんどん入って来るであらうから要注意である。

(安東) 住友から東洋基礎に移って五年になるが、まだやめると言われないので、経理部長をやっている。

長男はシンガポールだが、次男は小平、娘は春日部にいて、よく遊びに来る。孫も八人になった。(川本) 中学二年で芝中へ転校したので、皆と会うのは五十数年ぶりになる。野口コンツェルンの会社に勤め、北朝鮮にいたが、戦後は通産省の炭田調査をやり、その後、中小企業を六軒程渡り歩いたが、電力機器設計を十年程やって定年退職した後、一八〇度転換して、家族だけで手打そば屋をはじめ、親子三人楽しく暮らしている。

三年して新聞で紹介され、狭い店内に多勢の客に押寄せられたが、今でも気が向かないとそばを打たない。毎月二回、十年間打っているが、気に入ったものは年に何回か数えるほどだ。ソバ粉は北海道物が良い。

(庵原) 五十周年記念誌に宗教めいたことを書いたが、庵原が出家したのかと問合わせがあり苦笑している。

(それでも年賀状に「この度法華経の真髓に触れ、無上菩提を証せんことを志す」などと大言壮語した) (庵原佛次)

五五期

平成になって最初の関東五十五期会が、十一月十七日午後六時から、いつものとおり新宿区荒木町の「山宮」で開催された。

今回は、この会へは初めてという小沢忠樹君の出席もあって、思いう話に花が咲き、某君の付属小学校入学試験落第の話まで飛び出して、九時近くまで賑やかに歓談した。

出席者は次のとおり。

相川富士雄、小沢忠樹、辻弘、武井富夫、戸塚正五、中田千束、法月重雄、日比光明、山本孫一 (相川富士雄)

六〇期

「まだまだ若いぜ！」

関東六〇期会

八十九年十二月八日、久しぶりの同期会を市ヶ谷のアルカディア(私学会館)で開いた。

関東同窓会に名を連ねる五十名は生存する同期生の四分の一である。この割合は多いか少ないか。ほとんどが定年を迎えて二度

目の現役で張り切っている。

いま、ローマ在住の岡村崔(別掲記事参照)が仕事で帰国しているの、急遽開いたわけだが、いつもなら世話役をやる上杉重吉(関東同窓会副会長)がヒマラヤにトレッキングに行っていたので、小生が世話人にされてしまった。

ところが、十一月に上杉がネパールで高山病で入院(実はカトマンズのホテルで休養していたということである)という新聞記事がでたので、酒の肴も岡村のと合わせて二つできて、盛会であった。忘年会の先約などあって残念がる人も多かったが、十五名が集ったのはほ予想通りであった。

昭和二・三年生まれのわれわれは戦争で死んだものこそ少ないが、予科練・陸士・海兵・経理学校へ行ったものも多かった。その軍国少年たちが戦後の社会に放りだされ、だれもがそれなりに複雑な人生を送ってきた。その波乱万丈の人生は、到底一晩では語りつくせるものではない。

出席者の中にはめずらしい人も多かった。なおさら話題は尽きなかった。鈴木吉明、小林金次のサッカーにまつわる話、また山本雅之助が昔のことをよく覚えていて、それに釣られて諸先生方の

物真似もはじまり話はずんだ。

山本正三からお前のノートを写しておいたおかげでブーカンからいじめられなかったといわれて山崎鏡次がとまどっていた。里見元一郎も静岡弁の仲間入り。また柴田正臣は九〇年一月にはNHK関連の新社を創立するという。



聞いてみると皆それぞれに仕事を持ち、どうやら自由になって都会隠居術を練磨しているのは上杉と小生だけらしい。

欠席通知の中には海外出張中という人もいたが、病氣療養中という連絡もちらほらある。僧籍の益田清聞(要一)を前に、同期生に医者と坊主が多いから心強いという話もだが、「みんな元気で次の会にも出ようぜ」ということで、肩を組んで校歌を歌って散会した。

(笠間達男)

写真Ⅱ前列右より時田、小林、岡村、山崎、益田。後列右より鈴木、大石、山本正三、山本雅之助、柴田、笠間、里見、内藤、上杉。

六四期

七月七日、新橋新橋亭に二九名が集い、お互いの健康、活躍を祝しグラスを上げた。いつも同期会に出席してくれた、良友原田美津男君の急逝と静商、大原規男君の姿が見えないのは誠に残念だが、四十年ぶりに新井彰君が出席され大いに会を賑かにしてくれた。

静岡より近藤昭蔵、山下啓也君母校の近況を報告、毎度名司会者の渡辺素夫君で始まり、世話人代表、名波倉四郎君の挨拶、今年は出席者全員の近況報告をしてもら

った。仕事の事、家庭の事等々。来年は還暦、定年の年、もっと沢山の同期に逢いたいとの希望も多く努力する所存です。

今年は暖かったせい、金木精が咲かない内に、秋のゴルフ大会を迎えた。年々愛好者が増えて、五組一九名の多数になったが、六期の安田君の好意で十月八日、



東京、静岡合同で晴天の下実行出来た。初参加は新井彰、猿谷秀雄両君、久しぶり望月坦君。好プレー珍プレーな色々あったが楽しいゴルフの一日であった。

優勝は大石次男先輩、二位、新井彰、三位、岩本吉雄君、第一回来毎回出席の岩本君が九年目で

入賞された事は何よりも嬉しい。来年は是非神谷武男、山本光夫、山本和彦君に入賞してほしいと念願する。(野沢正憲)

六七期

昭和二十年(一九四五年)四月に静岡中学に入学、昭和二十六年(一九五一年)三月に静岡高校を卒業した私共六七期生は、一九九一年三月には、もう卒業四十周年を迎えることになるわけです。

九年前の卒業三十周年記念同窓会では、同窓会長始め、十五名の恩師のご臨席をたまわり、同期生の妻・子も自由参加とし、日本一の名司会、NHKの山川静夫君の進行司会のもと参加者二〇〇名になろうとする盛衰でした。会場はまさに熱気につつまれました。

それに、卒業三十周年記念誌として、*「印高67」*がカラーグラビヤ付本文二〇〇頁のハードカバーの豪華版として出版され、同期会記念誌としては、外観内容共に他期の追隨を許さぬものを生み出しました。これは、同期生諸兄の心からのご尽力と、ご協力があった磨き出された珠玉でした。

早いもので来年の卒業四十周年記念同窓会の準備も始動しなければ

ばならない時期になり、静岡の方の幹事も張切っております。四十周年記念同窓会も、前回記念大会に劣らぬ規模で開催し、還暦を控えての気概を示そうとしています。三十周年記念大会で噴出させたバイタリティーを今一度へいいう想いです。

何か素晴らしい企画・趣向がありましたら67期関東同窓会東京事務局か、直接静岡の幹事吉沢清治君・増田智一君の方へご連絡願います。

回想・随感・近況など

東欧の人々

46期 山本 幹雄

私には東ドイツに古い友人がいる。大変律義な方で、十五年位まえにドレスデン(東独)のホテルで御会いした医者の老夫妻である。最初にお会いした時から「日本の方は外国に自由に往き来できて本当にいいですね」と心から西側の国の自由を、自分達も早く手に入れたと考えて、毎日を過しておられる御様子が見えた。その

なお、蔭では悲痛なこともありました。

平成元年七月一日 中村 実君
平成元年十一月六日土屋晃康君
昨年中に両君が急逝され鬼籍に移られました。心からご冥福をお祈り申し上げます。葬儀には親しかった友人のほか、67期関東同窓会としても、幹事が代表して弔問し、供花又はご香料を供えさせて戴きましたのでご報告申し上げます。 合掌

(67期関東同窓会東京事務局)

後年末年始の御あいさつは勿論、旅行好きで、珍しそうな処に行かれた時は必ずといってよい位、たよりを下さる。そして永い間続けて下さって、私の御訪ねする日を待ちに待っておられた。一昨年の秋ドレスデンの国立健康博物館を再度の視察に行く機会があったので、思い切ってお訪ねすることにした。

東独では、当時友人のお客をおとめする場合にも警察にとけなければならぬことを知り、御迷惑をかけてしまったのではないかと、このことを懸念したが、伺って見てびっくりした。市内に住む息子さん御夫婦と子供さん達、隣町にすむ娘さん御夫婦と子供さん、合せて九人の御親せきの皆様が集って心からの歓待をうけて、伺ってよかったとつくづく感じたのだ。彼等は自由の人間である私を通して、自分達の自由の日を考えたのだ。

ベルリンの壁ができた翌年一九六二年、私は欧州を旅行した。当時西独の人達に会って見ると、第二次大戦によって同じ民族が二つに分けられたことに対する悲嘆にくれる様子は全く他目には見えておられない様な状況だった。それから二十五年を越える長い時間を、東独の人々も西独の人々も自分達を無理やりに二分したこの状態を常に考えて残念がっていたのだらう。言葉でこれをくやしがる状態は、だんだんうすれて来たようだったが、彼等の心の中につつまれた感情はやはりいつまでもたえ切れないうものがあつたようだ。三年前この友人の家を訪ねた時にも、私を大歓迎してくれる心のすきから、時々発せられる自由をさまたげられているうらみの声は、この永い間のそくばくに対するいきどおり

としてきえてくるのがよくわかったものだ。

昨年の秋になってからの、ベルリンの壁の破壊の光景にこめられた人々の強い意志を考えると、私には、東西両ドイツを分断のままでおこうとするゴルバチョフやブッシュ、その他関係諸国の人々の反対がどんなに大きくとも、両国の統合はそう遠くない時に実現するもの、としか考えられない。

北方領土の問題では、ソ連のぐりおしが続いているが、わが国民にとつて、どれだけの重みになっているのか、私自身は十分の実感がわかないことは、誠に申しわけないことだが、少数といえども東ドイツの場合と同じことがわが同胞達におこっているのだ。国民皆が応援して一日も早く日本に帰って来るべき方々が、安んじて故国で暮らせる様にしてあげたいものである。

写真家・岡村崔のこと

60期 笠間 達男

中学時代は「すずめ」と呼ばれた崔は今や「たか」になった。彼の仕事は六〇期卒業生の、そして同窓生の誇りである。

一九八九年秋には大阪・京都・東京の大丸デパートで「ポッティ

チエリの写真展」が開かれたのを見た人もいるだらう。「ヴィナス誕生」や「春」の実物大写真が背後からの光に照らされて実物以上に輝いて見え感動した。

壁画写真なら「オカムラ」というヨーロッパでの名声がヴァチカンに聞え、システィナ礼拝堂のミケランジェロの壁画の写真を委嘱されたのは二十年前のことだった。

撮影は十八米の移動式櫓を建て、揺れる台上で行われた。それは中学時代を郷研、大学時代は山岳部で過ごし、山岳写真から出発し、ヨーロッパ撮影中に山間のロマネスコ建築とその壁画に魅せられたキャリアが実を結んだのである。

その写真集は、静中に縁の深い講談社から私たちには手の届かない値段で出版され、岡村はそれでローマ法王から勲章を貰った。

いま、このミケランジェロの壁画は二十世紀の大事業として、表面のニスや修復のあとを洗い直して当初の姿への復元が行われている。ヴァチカンは作業の後を岡村に撮影させている。「おれが生きている中に終わってくれるだらう」と岡村は言っている。「使用前、使用後の写真だな」とわれわれは

冗談を言っているが、五百年に一回巡りあった機会で、これは歴史に残る仕事になるだろう。

ある時、深夜ひとりで撮影していたら、後ろに人の気配がしたので振り向いたら、一瞬そこにミケランジェロがいた。岡村にそう言われるとそんな気持ちになるほど彼はこの仕事に入れ込んでいる。チャールストン・ヘストン主演の「ミケランジェロ」という映画があった。あの映画がリバイバルされるそうだが、岡村の写真を背景にして再編集しようという話もあるということである。

今年、岡村がアメリカで出した写真集がNHKから翻訳されて出るらしい。「重さが二十七キロだよ」と言っていたから、またわれわれには手の届かない本になるのが何としても残念である。何とかして欲しいものである。

九十歳までは

生きたいもの!!

64期 増田 政雄

静中六十四期の在京グループは毎年七月七日に、集りを開いています。

毎年の顔合せに、最近、計報を聞くことが多くなりました。

今年も、梅雨の季節に、汽車通

焼津の同期の、原田美津男君のお通夜に参列することになり、七月七日の会に報告をいたす次第になりました。

御遺族より、「故人は、皆さんの会に出ることを、本当に楽しみにしておりました。皆さんと顔を合せ、お互いに頑張っているのを確かめて、自分の励みにしていったようでした。」「仕事は、朝から晩まで、一生懸命で、お医者さんに云われても、大丈夫大丈夫と頑張って働いてくれました。本当に頑張る屋さんでした。」という話を聞くにつけても、感心しておりました。

戦中・戦後の窮乏の時代から、なんとか少しでも増しな暮らしをしたものとは必死に働いてきたのが、私たちの人生ではなかったのでしょうか。同じ道のりを同じ思いで歩いて来たもの同士七月七日の集り、その一人一人の努力が今日の日本を作り上げて来たのだという自負と、よくここまで来たものだという感慨が、みんなの心をひとつにしてくれたのだと思います。

今日、一人当りのGNPで、アメリカを追い越したという日本の姿を見て、その成果を充分に享受することもなく、この世を去らね

ばならないのでは、まことに口惜しい限りではありませんか。

「平成」は、激動の幕明けと云われております。

日本国内でも、長い間の自民党の一党支配がおおきくゆらいできました。南米のチリをはじめ、世界のすみずみから、専制政治の崩壊と民主主義のコールが響いています。ベルリンの壁が取り壊され、東ヨーロッパにも自由の風が吹きぬけるようになりました。

自分たちが、この大きな変革の嵐の中にいるということは、それ自身がたいへんなことであり、自分たちもまた、歴史の創造者として生きているのだという実在感を自覚せざるにはいられません。

先日、フランス革命二〇〇年祭というのがバリでありましたが、「近代」というものが、たかだか二〇〇年だったのかと、フシギな感に打たれたものでした。

私たちが、時代というものを考える場合、親子で孫で、一〇〇年位をひとつのまとめでとて考えたいですが、私なりに「現代」というものを考える場合、「独断と偏見」をもってすれば、一九一七年のロシア革命から、きたるべき二〇一七年までの一〇〇年をもって一区切りとしたいと確信しま

す。

この一〇〇年は、世界が、帝国主義の市場として分割された時代から、国家間・民族間の対立・相剋を乗り越えて、地球規模で統一を恢復する道のりの時代と考えたいわけです。

今、地球の環境破壊や、エネルギー資源の将来の問題など、まさに全人類の生存に関わるテーマが論じられております。もう、国家的利益の優先や、民族エゴイズムの主張では、誰の目でも地球は救えないと理解されるようになってきました。

私たち六十四期は、今年で、そろそろ還暦を迎えることになりました。あと三十年生きながらえて、九十歳を迎える頃にでしょうか、この歴史的な大事業の成功を自らの黒い目で見ることができたならば幸せといふべきでしょう。

戦争が無くなくなり、国境も旅券も関税もなくなくなり、世界がひとつに統一された時代こそ、人類は、ようやくこの小さい青い惑星の主人公として、成人式に達したものとなりましょう。

今日、まだまだこれからという矢先に先立たれた旧友、原田美津男君の霊に心からの哀悼の意を捧げるとともに、残された者は、そ

の分だけ余計に生き、頑張ってくださいと考えます。

みなさん、せいぜい身体に気をつけて長生きをしましょう!

そして人類の歴史の新しい幕明け、統一した人間の力を基礎にして、人類の宇宙への旅立ちの時代をしっかりと見とどけようではありませんか!

さようなら 静岡のジャック・パランス

68期 萩原多賀男

このところ、少年時代に親しかった友があわただしく、あの世とやらへ旅立っていく。一人、また一人と。

あいつとは、こんなことを話しておきたかった、もう一回だけでも益を交わしたかったという想いが尽きない。久しぶりで会ってみたら白木の箱に納まっていたというのは、なんとも情けない。

人間、オギャーとこの世に生を受けた時から、死に向かって確実に一歩ずつ近づいているわけで、いずれ遅かれ、早かれ、自分も妻も友達もそれを避けては通れないことは理屈の上ではわかっていても、いざ大事なものを失ってみると心のどこかにポコンと空洞があったような気になるのは私だけだ

ろうか。

あえて偏見と独断でいわせてもらえば、子供のころ悪童、不良少年、悪ガキといわれた順に逝ってしまふような気がしてならない。

むろん当時のままの状態で不良青年、不良中年と育ってしまったわけではない。私個人とすれば、私を含めて友達みんなが、そんな風な状態がずっと続いて、そろって不良老年を迎えたら、どんなに楽しいかと思うのだが、ある時期を境にそれなりの社会的地位と信用を身につけると、どういうわけか、したり顔になってしまう。

静中・静高を通じ、さらに初老を迎えた私にとって、織田広君は大事な心の財産であり、昔のまんまで語り合える男だった。私同様少年時代は悪ガキの一人でもあった。

同期生には学校から処分を受けた者は、それこそごまんといて珍しくもなんともなかったが、彼はその第一号ではなかったか。当時レーサーといわれる派手で格好のいい自転車は買ったが、麻機からそれで風を切って通学していたものだ。

色の黒いのは大成してからも変わらなかったが、少年時代は「控え眼」のどんぐりまなこに、自称

不良少年にしては妙な愛きようがあり、タヌキを連想させることから「タヌ公」と呼ばれていた。

それが長じてからは敵しい色加わり、どことなくジャック・パランスの風ぼうに似てきた。だが悪役風とは似ても似つかぬほど心根の優しい男だった。実に友達を大事にした。

たまに私が静岡に行くことがあると、万難を排して会いに来てくれたものだ。「よう、久しぶり」

「やあ、ウマ公、元気だったか」タヌ公とウマ公が肩を抱き合いな

が「こうケモノばかりじゃ、なんだかムツゴロウの世界みたいだな」と、のどちんこが見えるほど

大口をあけて笑った顔が懐しい。「せえだんてな、俺がせえつづら」この男と話をしていると、すべてが四十年前に逆もどりしてしまふのだった。

同期会を企画したり、実にこまめに立ち働く男だった。だれのためでもない、みんな友達のためだった。

同期生一人ひとりの葬式をみて世話をやき、そして一番最後に逝くのがこの男だと、だれもが信じて疑わなかった。「それじゃあ、約束が違ふじゃないか」織田タヌ公の死を知らされた時、

思わず口走ってしまった。

今でも静岡のあの店へ行けば、「おまっちが来るのを待ってただい」と騒々しく入ってくるような気がしてならない。

悪ガキの順に旅立って行くとなると、次の番は私かも知れないが私たちの人生は、いくつになっても青春時代だった。

さようなら「静岡のジャック・パランス」。

関東同窓ゴルフコンペに優勝

70期 調子 達郎

ベスグロ優勝、ハーフスコアー40・41、グロス81、ハンディキャップ13、ネットスコア68の、ブッチギリ優勝をさせていただきました。

新日本証券協会の、大石巖(53期)先輩が関東同窓会会長に就任されて初めてのゴルフコンペでした。

しかも、大石先輩のご尽力でホームコースの名門箱根カントリー倶楽部をとっていただき、10月26日快晴、富士山を眼前に眺め、しかも暖かな絶好のゴルフ日和で行われました。

2位に甘んじられた大石先輩はハンディ10、中村竜二君(70期)ハンディ11とそうそうたる顔ぶ

れの約20名のコンペで、私は前述の同期の中村竜二9位と味岡宏6位と、荒谷じつ子7位とパーティーを組み、お陰で楽しい一日をすごすことができました。プレー終了後、クラブハウスの特別室でのパーティー兼表彰式もまた格別楽しいものでした。

私はたまたま良きパートナーに恵まれ思いがけないスコアがでてしまい、優勝の表彰を大石会長より受けたときは恐縮しました。

ハンディキャップ13は甘い、もう優勝できないハンディにすべきだといった痛烈なお言葉があちこちで飛び交い、次回はなんとハンディ5ということで、もう一生優勝不可能となつてしまい、ただ参加するのを楽しみにすることを心に決めました。

私が53才で40・41のスコアーを出すことができたのは、実は偶然のようでそうでもない部分があったのです。

その理由は今年の五月頃、人間ドックで中性脂肪と尿酸の数値が高いとドクターに指摘され、原因はカロリーの取りすぎと運動不足と言われ、一日一万歩を自分に義務付けるようアドバイスされ、以来一日三千歩しか歩かなかった自分としては、ゴルフの一ラウンド



が万歩計をつけてやってみると、一万八千歩になることがわかり、「ゴルフとは歩くことなり」と悟りスコアーに対する欲望が消え、

50をたたいても楽しいゴルフができ今回の優勝につながったという訳でした。

終りに大石会長の秘書でいらっしゃる、大変美しい山崎弘子様にはスナップ写真をとっていただいたり、いろいろお世話になったことをあわせてお礼申し上げます。優勝万歳！

『シモノ』とともに

下野由起子

会報26号の中で、鈴木明郎氏が目についた「シモノ」も、又27号これで再稿補足して下さった渡辺素夫氏の「シモノ」も、当時の「シモノ」の姿を活写しているという気がいたします。

実の「シモノ」は大学在学中から歴史の中の「国史」を専科として、私には「東洋史」を読めとすすめました。「東洋史」を読むことにより「国史」をより深く読むということではなかったかと思ひ当ります。

文中「非国民」とか「反国家主義」とかの印象は当時の中学生にうつった彼の姿には、私にも彷彿とさせる思い当る節があります。国史を学ぶ情熱は燎原の炎の様に燃え広がり、その究極の一端に

「社会主義国家」を知る端となったのではないかと思われ、そういう時期が静中の授業に投影されなかったとは言いきれません。

彼は一口に云えば、生活を考える人ではなく、人生を考えるタイプでした。ローマをめざして、目は遠くローマを見つめ、足もとをみず、一方、私はこの一歩はいつかローマに通ずるだろうと一歩一歩足元ばかりを見つめて歩いていった様な気がいたします。

彼は折ある毎に将来は南方へ進むことを念願しつつ、私には30才までに子は産み終り、「鏡とミシン」だけを持って、南方に行くのだとうそぶいて居りました。この言葉は私にも強く頭に残り、時々娘と話しながら、戦後、私たちはアパッチの様な暮らしをしてきたことでしょうかと笑います。

もう五十年を過ぎようとしております。

この五十年を経た今、なお「シモノ」をとりあげ、ペンをもっていたことに、教師と生徒さんとの深い「つながり」のあったことに瞠目し、涙してお礼を申し上げます。

▼名古屋在住の下野さんにも会報が出るたびに送っておりましたが

暑中見舞い状の中に、このような感想が綴られておりましたので、ここに一部抜萃して掲載させていただきます。(60期 上杉重吉)

第42回 江の島会

東方、三浦半島は薄く霞み、振り返る西湘方面は黒雲の下にあり、ここ江の島は南西の風や強く曇り。ガラガラと激しく何かを追い求める様な真夏は過ぎ去り、往き交う人々の表情に心なしかゆとりの見られる頃となった九月三日、集う岳南健児は32名、遠く大阪府からの参加者も得て第42回江の島会が開かれた。いつもの恵比寿屋(35期永野 清名誉会長経営)は建替工事中とあって、永野氏斡旋によって本年は江の島弁天橋もと二見館に会場が設けられた。

『当日の参加者内訳』

母校から鈴木嘉弘学校長、同窓会本部から、会長代理安池得之氏(67)及び事務局甲木怜氏(79)、関東同窓会から会長代理奥野孝氏(53)、関西同窓会から平山桂(43)・志田清(53)の両氏、地元(静岡県・東京都を含む)は江の島名誉会長永野清氏以下35・37・40期各1名、42期2名、43・49・51期各1名、53期2名、54期1名、

59期3名、63期1、68期各2名、69期1名、70期3名、72・77・84期各1名。内男性31名。村松直会長(42)はリハビリ中の為まことに残念ながら欠席された。

『総会』

奥沢幹事(59)司会により正午開会、先ず会長代理月見里副会長(53)による挨拶。中で村松会長夫人からの便りが披露され、会長の「江の島会万歳万歳万歳」との会に寄せる熱き想いが読みあげられた。次いで鈴木学校長から新校舍等母校の近況の他「表現力豊かな人間作り」との教育方針が語られた。同窓会本部からは会の動きの他、野村彰夫氏(79)講演会、市川哲郎氏(67)帰朝報告会、更に駿府博が黒字で閉幕した等々多くの情報を祝辞と共に頂いた。関東同窓会からは祝辞、会務報告的諸事項の他、会員が気軽に顔を会

い雰囲気の中で、百十三才まで生きる意欲に燃えている等々。この会での再会が待ち遠しい。議事は諸報告、提案事項が承認されて無事終了し、記念撮影を経て愈々懇親会となる。

『懇親会第一』

十三時、成岡幹事(67)司会により開会。ここでの校歌は満を持して一番のみ。乾杯の音頭は永野名誉会長、病後(胆石、8月12日退院)と思えぬ元氣。やがて各期入り乱れての混談が其所所で。この日の紅一点松島さん(69)の清澄なる美声にまじって、成岡司会者の必らずしも清澄とは言えない声でカラオケが始まるともうあとは留処なし。若手代表の近藤氏(84)も大張り切り。

井出氏(42)、志田氏(53)からかつての野球部・応援団・甲子園・校歌にまつわる話があつてやがていつもの校歌4番迄と応援歌第一・6番迄が始まる次第となる。勿論井出氏のあの張りのある大音声の出番である。この声を聞か

いと江の島会に来た気がしない。ところでこの応援歌第一であるが、素晴らしい歌詞に満ちている。終節で高音部を歌いにくいのが一寸困る所だろうが、この所が又、少年時代を思い出すすがともな

っている（井出氏の抜群の記憶力による歌詞を後記する）。そして野崎氏（40）の浅間神社の廿日会祭おねり囃子、木遣節。

江の島会総会案内状の冒頭にいつも詩が載っている。五十音が巧みに詠み込んであっていつも感心させられる。作者の月見里氏登場して苦心談及び苦心してない談が語られる。質問に答えて月見里と書いてヤマナシと発音する姓の由来の話となる。山賊説や羽衣伝説とのからみなど出て来て氏の温故の情熱益々燃えて静中郷研部の面目躍如。斯くて楽しく打ち過ぎ、万歳と共に懇親会第一は終って解散し、懇親会第二へと移る。

『懇親会第二』

江の島弁天橋中程にある伝統の屋台「いそみ」が奥沢・成岡両氏の肝煎りによりいつも会場になっている。気の好いおばさん親子の店でおでんと焼きはまがうまい。ここへ、15名程が流れ込む訳である。膝つき合わせてぎっしり満員、談論風発、和氣満々。空の暗雲その内雨となりついに土砂降り。あちこちから雨がポタポタ、水割りが自動的に出来る仕儀とは相成った。屋台の中で洋傘さしつつおでんの水割り、これ又珍味、やがて雨もあがって清風吹き渡り、知性と

優雅とバンカラとそしてノスタルジアと意気に満ちた第42回江の島会は幕となった。時に一九八九年九月三日（日）十八時三〇分。

△塚本浩司（68）記▽

◇ 『応援歌第一』

当日、井出氏が歌われたたまを氏の原稿に基づいてここに再録させて頂きます。レコードにも名簿にも二番までしか出ていませんので。

△国塩研二郎氏（40）作詞▽

1、

春静陵の雄叫びや
岡辺万葉の花ふるい
秋芙蓉下の関の声
風神怒りて雲をつく

尚武の誉静中の

健児の意気を見ずや君

健児の意気を見ずや君

2、

我が当年のますらをが
胸の血汐をたぎらせて
鉄腕撫して立つところ
桂冠ここに幾春秋

岳南の空連勝の

覇業の光栄輝きぬ

覇業の光栄輝きぬ

3、

さあれ高眠永からず
平和よしばし春の夢

我光栄と輝きて

寄せ来る敵も無かりしに

あな仇人の関の声

友よ才取れ戦はむ

友よ才取れ戦はむ

4、

岳南の空や安倍川原
勝たねば止まぬ雄心に
飛躍を待ちて幽谷に
臥竜の想ひ幾年ぞ

春秋の花我知らず

唯営々の意気の跡

唯営々の意気の跡

5、

今壮快の晴れ戦さ
見よ雄叫びの只中に
威風凛々我が選手
剣を取らむ時ぞ今

我等一千此処に在り

覇権を譲ることなかれ

覇権を譲ることなかれ

6、

静陵の空燦として
乾坤どよむ関の声
嗚呼戦はむ勝ち戦さ
栄の歴史を飾るべく

嗚呼戦はむ勝ち戦さ

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

天下に覇をば唱ふべく

静岡だより

静高野球部の活躍

春の選抜を目指しての秋季高校野球静岡県大会と東海大会が、九月から十月にかけて静岡・愛知両県を舞台に開催された。

中部地区予選では四位と振るわなかった静高だったが、県大会に入るとさすがに調子を上げ本来の力を出した。九月三十日に行われた一回戦では、エース山崎が磐田南を三安打に抑え5-0と完勝。続く十月一日の二回戦では、一年生久保の四打数四安打の活躍などで、東部一位の沼津学園を5-3と下した。

翌週の八日には、時折強い雨に見舞われる富士球場で、決勝進出をかけて浜松商業との対決となった。二回に山崎の二塁打と服部のスクイズなどで一点を先取した静高だったが、結局浜商のエース水島の丁寧な投球にかわされて、3-1で敗れた。

東海大会出場への第三の座をかけた三位決定戦は、近年成長著しい常葉菊川との間で行われた。

試合は、今や切り込み隊長となった一年生久保の三回のスリーラン・ホームランなどで五点をあげた静高が、守りでは山崎が相手打線を二安打完封に抑える力投で5-0と菊川を下し、県大会優勝の浜松商業、準優勝の東海大工とともに、東海大会へ駒を進めた。

さて選抜の甲子園行きをかけた秋季高校野球東海大会は、十月二十八日に開幕となった。静高は名古屋瑞穂球場での一回戦で、チーム打率三割七分四厘を誇る強打の四日市工業と対戦した。4-1とリードされて迎えた八回裏、主将八木の二打席連続の二塁打などで二点を返して四日市高に迫ったがあと一点が及ばず4-3で涙をのんだ。しかし、先制されれば追撃し、突き放されれば食い下がる静高の執拗な粘りは高い評価を受けた。

結局、決勝は愛知の享栄と浜商の対決となったが、圧倒的な打力を誇る享栄が7-0と浜商を下し優勝した。浜商は準優勝ながら、県勢としては三年ぶりに「選抜切符」を手中にした。



(85期 吉水 広)

(写真説明) 県大会の三位決定戦で、切り込み隊長久保が、左翼にスリーランを放つ。

◇

「野球部史編纂にご協力を」

母校野球部に寄せられるご厚意深くお礼申し上げます、

明治二十九年の野球部創部から昭和三十八年の四十五回甲子園大会出場までの『静中・静高野球部史』を出版したのが、三十九年七月でした。

以来、平成元年までに、夏の甲子園五回、春の選抜大会には三回の出場と、伝統に新しいページを記録してきております。

そろそろ部史第二部を作つてはという声があり、その準備に取

り掛つているところです。

公式戦の記録、戦評、部員たちの思い出など、資料は事欠きません。しかし、部外より見た野球部の姿が見極めにくく難儀しております。

部員との交遊のエピソード、観戦記、ご意見など参考になる資料を持っておられる方々がいると思います。それらをお送り頂き、部史の充実をはかりたいと考えております。ご協力をお願いする次第です。

(送り先)

422 静岡市西島九一二の二一

67期 法月 郁雄

●お願い

一、年会費二千円の拠出を、同封の振替用紙にて、ぜひ早くお願いいたします。(既納の方にも用紙は同封しておりますことをご諒承ください)

一、42期から105期の各期のうち、幹事の確定していない期が約三分の一を数えます。至急選定のうえ、事務局までお知らせください。

●投稿を歓迎します!

・同期会・随想・紀行文・回想記・和歌俳句・新刊の紹介・会報についての意見など

「こえ」

気軽に筆を執つて
お送りください

42 村松 直

皆様お元気のことと存じます。主人もここ二年は変わることなく過ごさせていたいております事は皆様のお力添へのおかげと感謝でいっぱいでございます。

又皆様とお目にかかれる日を楽しみにしております。

42 中嶋 敏

このところ総会懇親会二、三回欠席していますが、ますます無事過しております。次回は出席を期しております。

43 山村 忠雄

63年1月入院手術、約一年間人生の大休止を実施し、やっと職場に復帰することが出来ました。

「生涯現役」の精神をモットーにして、社会奉仕に徹し、お役に立ちたいと思っています。

よろしくご指導の程お願いいたします。

43 望月 孟夫

朝夕の犬の散歩だけが仕事であとはテレビを見たりして細々と生きて居ります。

44 外川 誠

クラスの生き残りが半分になっ

た今、私はまあまあ健康で適当に働き天気の日には出来るだけ歩くことに精出して居ります。幸い横浜の外れて鎌倉や三浦半島に近く景色も良く老後の生活には最適と喜んで居ります。同期の諸兄よ。お互いにもう少し頑張りましょう。

四郎こと昭和六十三年九月二十八日他界しましたので御報告申し上げます。生前の御厚情心より御礼申し上げます。

44 武田 四郎

わが静中の校歌は、戦前も戦後も一貫して変わっていません。このなんでもないようなことが実は珍重で、郷土をはなれて住んでみですと、他の学校の校歌は、戦後変えられていますので、先輩には今の校歌は歌えません。従って静中の同窓会のように大合唱ができません。

45 千葉 保次

妻 憲子

職を辞して二年、漸く浪々の生活にも馴れ、晴耕雨読とゆきたいが目下静考憂独、世相嘆の毎日です。

45 下川 猛

47 龜山 敏男

総会と旅行と重なり欠席残念でした。年なりに過して居ります。日々是好日を心掛けています。

48 河村 祥

48 岩崎 鑑一

三代の七十四年消え去りぬ わが来し方は道化にも似て

49 直原 敏衛

クラス会には出るが同窓会には出ないから退会するという記事を見て我が意を得たりと思ったけれど、知っている後輩を見付けたので気を取り直して次回は出席することになります。

49 杉本 久敏

静中時代は剣道ばかりやっていて他に余り思い出がありません。さっぱり強くならずとうとう物になりませんでした。そんな思い出が今はなつかしく思い出されます。

49 篠原 泰

元気で年金生活を楽しんでいます。

49 石割 敏夫

幹事さん御苦勞様です。私は現在設計事務所毎日元気に勤務して居ります。

49 伊藤徹次郎

東京の総会に同期の出席者が菅沼君の他殆どいなくなったことを残念に思っているのみです。

50 江川 友治

甲子園、選抜が近づく度に、今年の静中はどうかな、と気になって静岡の弟に今年の戦力を電話できいたりする。三年計画位で豪速球の投手を育てられないものか。

静中の甲子園へ出場するのを心待ちにしているOBがたくさんいることを学校の方にも伝えて下さい。

51 下山富太郎

早いもので会社をリタイヤして十年になり、道楽にシャム猫をかかって改良したりして毎日すごしています。

51 森 弘

卒業以来、己に半世紀を過ぎておられます。

今や七十才、なんとか生きておる次第。岳南健児の関東における益々の御健斗を祈ります。

52 茂呂 茂樹

本年二月簡易裁判所を定年退官し、弁護士登録をしました。ただし、月一回前に勤めていた輪銀に出かけるほか、国選弁護をたまにやる程度です。

53 桜井 昌也

油絵を四年位前から始めましたが一向に進歩せず、近くの鎌倉に住む園田芳男君から酷評を戴いています。今年からはダンススレックス

ンに通いはじめ、自己流ステップを徹底的に直され中。水泳は週一回。やっとバックが何とか出来るようになりました。お蔭で元気で

54 八木銑次郎

定年退職後十三年目となり、少々老人性の症状も出ていますが、昔のテレビ技術のしごとを生かして週二日は技術支援のアルバイトをしています。

54 川本平八郎

欠席ばかりで申訳ありません。

55 野中 篤

ふるさと静岡や母校を想う心は人一倍と自分で勝手に思っています。最近やや年のせいか昔を一層懐かしく感じます。(そこで駄作二首)

若かりし静中時代思い出す

かの師あの友なつかしき顔

静中の呼び名なつかしはるかなる

若かりし君思い出されて

55 戸塚 正五

お陰で健康にだけは恵まれ、毎日元気に働けることを感謝しつつ日本橋の事務所まで通っておりま

55 山本 武

総会は入院中でしたので失礼致しました。

58 加藤 久

6月9日の総会には体調を崩し欠席してしまい申訳ございまして。四月二十六日には増田完吉先輩が死去され、大変淋しくなりました。

59 高橋 裕

2年前に東大を停年退官し芝浦工大土木学科に勤め、あいかわらず河川の勉強をしています。この2月には清水市の興津川シンポジウムに行つて参りました。

59 湯本 幸丸

会報を有がとう御座居ました。

杉山様の中国占星術は未だ読んで

いませんが、ゆっくり何度か読みかえして、理解することを楽しみにして居ります。会報には各界の専門家の専門部門のお話をのせて頂くと有難いです。

60 益田 清閑

元気で毎日を送っています。

60 新間 昌輝

会報も内容充実し、楽しく読ませてもらっています。中国占星術も佳く、回想「下野はいづこ」も気のきいた付記と共に、厚みを感じました。それにつけても、皆様の記憶の確かさは驚異です。次号楽しみにです。

60 君島 康弘

会報27号、原善三郎君の「十六日に会いましょう」の記事なつか

しく拝見。私も静岡へ帰れば磯谷君の自宅によくおじゃまします。十六日の会にも出席させていたただいたこともあり、新鮮な刺激を受けて有意義な集りです。この所こぶさたして残念です。

61 高村 岳史

会報で下野先生の記事を読み、小柄で黒メガネの先生の姿を三十七年振りになつかしく憶い出しました。以下別便で投稿するつもりです。

61 花見 久

ダイヤモンドキャピタル株式で元気に仕事をしています。

61 君島 敏男

久しぶりに会報二七号拝見。乾杯の音頭をとる石割先輩の元気な姿あり、黒はんぺん、玉ねぎのフライも並んでいたそうで、盛会の由なによりです。

67 大森 恵吉

今春五月に店を移転しました。新住所は札幌市中央区南一条西四十丁目大通公園より一丁目南にあります。以前と同じソーニー製品を主体の店です。当地は今年異常にあつさが続いています。これもあと何日かな(八月四日現在)と思

68 中村 睦

っています。諸兄によろしく。

緑住所より転宅致しました。現在転居先を探しております。わかり次第連絡致します。私共六十八期も五十代半ば、これからまだまだがんばりますが、役員の皆様方にもお身体気をつけて下さいませ。様お祈り申し上げます。

69 堀場千賀重

元気で過しております。建築の設計の仕事にたずさわって居ります。

70 若林 久二

日頃の行動予定も、若かりし頃はメモより記憶が優先でした。最近は特に手帳頼りの生活です。同窓会案内等々見たら状態差しにくでなく、後のまつりにならぬ様その場でメモすることを忘れないようにしようと思う今日この頃です。

70 村松 勝治

不釣合とも思える銀座でのサラリーマン生活もやがて二十五年になろうとしています。地方勤務が比較的短く従って転動も少なく大都会暮らしが長くなつてしまいました。反面、立地条件の良さと同期の面々と常時会え親交を温めることが出来るのは何よりの喜びとなつていきます。

※以下、紙面の都合で次号に掲載することになりましたことをお詫びいたします。

平成元年度会費拠出者

(順不同・敬称略)

平成元年4月1日～2年11月31日
期別

四九

賢治、青木香、佐々木英夫

(3)・富谷精一、日比野悦三

菅沼栄、安本久、直原敏衛

上杉一郎、杉本久敬、鈴木

鑑(4)・篠原泰、長井広、

嶋三四郎、石割敏夫、伊藤

徹次郎、伴野徳三郎、石田

大二郎、大津英輔、陰山修

次、曾根重四郎、矢崎宗男

山村忠平

五〇

梶原忠治、市太郎、永田徹

仁科義郎、梅村魁、一一彦

田中誠、江川友治、山田喜

志夫(3)・大庭富士夫、緑

川俊徳、深沢八郎

五一

下山富太郎、寺尾利男(4)

森弘、難波悦朗、谷川清、

蘆田正之、田中賢一、永井

五一郎、原崎郁平、渡辺功

川島喜八郎、田中貞司、服

部雅雄、広川聡、石野、大

草知久、岩本良雄、茂呂茂

樹、市川雄八郎、直原澄衛

綾部立一、遠藤廉、佐藤昌

武、渋谷正敏、曾根信一(3)

新美弘

五二

大石敏、奥野孝、小野一夫

島田良彦、園田芳男、谷静

夫、徳永悠久、橋本久仁寿

月見里得知郎、山菅幸雄、

益田貞三、杉山滋夫(3)・桜

井昌也、宗像醇、森下洋、

五三

五八

大橋百蔵、鈴木弘雄、片桐

鎮夫、志田寿一、三枝正裕

庵原悌次、細井庸二、大畑

忠夫、安東哲夫、八木銑次

郎、川本平八郎、渡辺治郎

佐野圭司、平林一郎、山口

道也磯野修、高井昂、大藤

直久篠原範平(3)・柴崎芳

三、佐野資郎、杉山茂樹、

鈴木猛

五五

相川富士雄、武井富夫、長

沢栄一、成瀬信男、法月重

雄、中田吉信、野中篤、山

下武男、中田千束、中野治

良、戸塚正五、小沢忠樹、

堀江重遠、山本武松井保治

吉川鑑介、相馬英夫、木村

康弘、日比光明

五六

青木良文、大野日佐太、奥

野進、橋本保二、原田昇左

右、横森桂、高橋四郎、佐

々木俊夫、山田隆

五七

岩井平一郎、影島利邦、杉

山正友、高橋礼久、月見里

礼次郎、米沢正次、坂田秀

雄、菅稔、久保田誠三、島

根光明、渡辺武男、酒井博

(3)・小花正昭、大島隆夫

岡田久男、加藤健三、富田

澄、藤巻重男、望月修、森

下恒彦

五八

奥野広、佐野正夫、伊藤健

六〇

三、末広照男、加藤久、海

野進、天野国明、原田和彦

青山勇、奥沢徹、小花敏郎

川田昭、清水江、福地眞

増田真一、三輪潔近藤陽三

勝呂清、原淳、高橋裕、酒

井哲夫、湯本幸丸、富永利

夫、小沢武彦、加藤恵一、

菅原操、福原元一、田沢義

彦、佐野英一、望月靖久、

鈴木義男(4)・青木豊

上杉重吉、大石隆一、笠間

達男、鈴木光男、堤崇、時

田正康、益田清聞、山崎鏡

次、新間昌輝、原善三郎、

逸見昭三、河合睦郎、柴田

正臣、鈴木明、辻村輝彦、

山路敬三、渡辺博、萩原莊

太郎、齊木学、君島康弘、

小林金次

六一

天野昭、奥野泰助、高村岳

史、清水照彦(4)・花見

久、君島敏男、西田駿之介

赤羽昭二、大村富士男、宇

都宮道和、片桐篤、青木邦

彦(4)・相羽達雄、小久江

浅二(4)・立花幹夫、大

石次男、末吉晴夫、相馬孝

浅野徹治、佐野剛、徳永重

遠、富永辰典、萩原将弘

六二・六三 白鳥芳夫

六四・六五 鈴木明郎、野沢正憲

内科・外科・整形外科・皮膚科・放射線科

人間ドック

熱 函 病 院

院長 小 坂 博 (67期)

住所 熱海市春日町12-2

TEL 0557-83-3131

株式会社 富 士 越
株式会社 富 士 越 化 成

代表取締役 野 澤 正 憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL(409) 3342代

TEL(400) 9541代

- 六八 村上喜代二、浅井幹夫、新井彰、稻見章、岩本吉雄、大村達郎、加藤満、神谷武男、栗田行雄、近藤俊彦、野旭、名波倉四郎、中村孝、永田進一、長島健、長谷川直和、益頭尚文、村上善代二、吉井駿亮、渡辺素夫、増田政雄、馬場泰男(3)、狩野達彦、山本和彦、増田誠男、田中歌、塚本光彦、蛭川博之、松下一男、渡辺宏一、馬越峻、河守輝雄、久保泰夫、杉村行勇、田中俊男、辻陽一、増井和夫、山下智康、森山秀夫、安池智策、山下裕一、河合正純、中野省吾、安田正弥
- 六七 遠藤一彦、小沢駿二、大石脩而、梶原由三、川上剛二、黒田秀幸、小坂博、塩沢満中村雄次、成岡英彦、福原享一、牧田仁男、溝口淑郎、長倉孝三、鈴木敏行、影山友安、大森憲吉、稲葉昌弘、岡村英二郎、丸山英久(3)、増田正高、大村原、小杉弘、長尾章、増田安国、松本安子、滝川博、加藤友行、島居滋夫
- 六九 也、鈴木俊彦、高橋俊見、立花雅一、塚本浩司、野中省三、萩原多賀男、福本準一郎、星野敏郎、荒谷じつ子、大橋勝弘、望月芳朗、酒井定子、中村睦、秋山和也、栗田瑞夫、伊東良平、大川庄治、市原卓、額綱晃生(3)、白鳥健次、宇田貞子、田中英夫(3)、杉山忠男、八木貞夫
- 七〇 小川孝光、神谷貞子、松島玲子、田中輝雄、田川邦子、堀場千賀重、高林蠟夫、堤章(3)、原英子、八木義弘、石山博、市川三世史、岩崎修、大高源之丞、勝間田保夫、清水令一郎、鈴木明次、関哲男、中馬敏雄、中村竜二、仁科正雄、八木千二、味岡宏、柳沢伯夫、田中元(4)、若林久二、大草敏郎、村松勝治、佐々木政之、宮代省一、渡辺勝美、庵原英男、小林孝光、松隈明雄、北村孝、堀西有夫、谷川治弘、斉藤晴彦、向坂達也、滝口登、調子達郎(4)、石川悟(4)、岩崎堅司、小佐野榮雄、小長谷清美、富田三樹、大地不二雄、松永茂、藤巻貞夫、山田隆嗣
- 七一 天石晴郎、白石通子、野田卓男、森野寿美子、梅原孝允、片山守彦、栗田甲子男、繁村一雄、野沢弥寿、矢部正和、後藤弘枝、海野幸雄、秋田和男、佐藤利治、酒井力、森川滝太郎、山本雅司、徳田武司、広田道男、小関修身、安藤竜男、青木庄二郎、石川宏、白井力、浦田彰、実石欣哉、岩崎矩夫、今村清彦、加藤祐史、小池啓治、杉山弘成、友田勲、本間啓司、村松綾啓、山崎恭弘、山本弘美、桜井保秋、宗野佳郎、深田均、松木茂夫、山口公子、川端正志、笹原英夫、前田栄一
- 七二 後藤孝子、鈴木雅子、豊田智子、大嶽隆司、松下晴一、諏訪部美恵子、佐藤鐘司、籠宮達二郎、白田恭二、青木道芳、稲葉一字、小和田久雄、桑原英明、桑原伊玖子、藤原経史(4)、稲垣幹雄(6)、小笠原隆夫、中西恭二、渡部伊保子、後藤正義、柳沢弥太郎、天野秀雄、加藤重信、山内幸太郎、森
- 七三 正毅、大岩蓮、仁科光司、江頭真彦、稲森和夫、深山源一、池端次雄、栗野吉洲、石間啓一、中村邦彦、松岡照明
- 七四 富野興
- 七五 多田佳忠(6)
- 七六 玉井直子
- 七七 篠原良孝、鈴木秀孝、多賀谷保治、平岩正史、栗科名雄、荒井千明、荒井郁子、榎葉俊一、佐野靖宏、萩原素夫
- 七八 清水篤、服部泰子、小島毅、齊藤和弘、大沢雅彦、落合直樹、菊入みゆき、菊入弘行、杉山知生
- 七九 杉田太志、清水恵子、相原圭一郎、天野充、岩本裕二、福岡将文、森下嘉之、池ヶ谷嵯枝子
- 八〇 世良賢治
- 八一 赤堀元一、望月康二、井上徹、長田朋之
- 八二 大石晃生、杉本文洋、鈴木靖生、長島隆博、渡辺晃生、望、月さゆり、山本徳子
- 八三 入野寛子、川島由紀、海野薫、稲葉和也、内藤篤
- 八四 浅場恵美、岡本朋子、浜野和子、堀田智美

建築設計・監理

ユニオン設計センター

代表取締役 成岡 英彦 (67期)

一級建築事務所登録7425号

東京都新宿区西新宿7-14-9 規格ビル

TEL 03-363-8604 (代表)

国際線航空貨物・海外旅客取扱
運輸大臣登録旅行業代理店業3440号

株フジ・ワールド・エンタープライズ

代表取締役 中馬 敏雄 (70期)

〒105 東京都港区浜浜町2-8-9 春原浜松町ビル

貨物電話 434-0591 (代)

旅客電話 437-5861 (代)

FAX 434-5537

鈴 与 株 式 会 社

取締役会長 鈴木 与 平 (44期)

清水市入船町11-1
Tel 0543 (53) 3111 (大代表)
東京支社 千代田区丸の内2-3-2 郵船ビル4F
Tel 03 (284) 0551 (代)

トッパン・ムーア株式会社

取締役会長 宮澤 次郎 (42期)

東京都千代田区神田駿河台1-6
TEL (295) 2411 (大代表)

凸版印刷株式会社

東京都台東区台東1-5-1
TEL (833) 2111 (大代表)

新東京印刷株式会社

代表取締役 梶原 由三 (67期)

東京都中央区八丁堀2-1-7 神鋼ビル
TEL 03-553-8981 (代表)

株式会社 東 電 社

取締役社長 岩波 信平 (42期)

東京都中央区日本橋2-1-21
TEL (271) 2701 (大代表)

日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田645
TEL 0542(62) 1111 (代)
東京 中央区京橋1-2 越前屋ビル
TEL 03(272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社工場 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6 〒246
Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547
大和工場 大和市深見3706-1 〒242
Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343
東松山工場 東松山市大字新郷88-47 〒355
Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

建築コンサルタント・設計施工業務
建築に関する御相談は御気軽に……

株式会社 大 雄

取締役社長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階
TEL 03-834-5331 (代表)

建築設計・監理

株式会社 奥野建築設計事務所

取締役会長 奥野 孝 (53期)
取締役社長 奥野 進 (56期)
取締役副社長 奥野 広 (58期)

本社 東京都台東区寿2-5-12 加瀬ビル
Tel 03-842-6831 (代表)
静岡事務所 静岡市安東2-8-14
Tel 0542-46-9378

総合広告代理店

株式会社 アドプロ

代表取締役 朝比奈 正三 (67期)

東京都千代田区内神田3-4-5 岡崎ビル3階
TEL 03-254-2171 (代表)